

2022年度広島市立大学外国人留学生選抜  
(国際学部)

**小 論 文** (120分)

2022年2月25日

**注 意 事 項**

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子は7ページあります。  
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合には、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 解答用紙は3枚です。解答はすべて解答用紙の所定の場所に記入しなさい。
- 4 受験番号は、すべての解答用紙の所定の欄に、必ず記入しなさい。
- 5 解答用紙とは別に、下書用紙が1枚あります。必要に応じて自由に使用しなさい。
- 6 配付した解答用紙は、試験終了後にすべて回収します。
- 7 試験終了後、問題冊子及び下書用紙は持ち帰りなさい。

このページは空白である。

第1問 つぎの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

著作権保護の観点から公開していません。

著作権保護の観点から公開していません。

出典：竹沢尚一郎（2021）「第8章 食と農」春日直樹・竹沢尚一郎編『文化人類学のエッセンス——世界をみる／変える』有斐閣。必要に応じて表現などを変えてある。

（注1） 畝：畑で作物を作るために細長く土を盛り上げたところ。

（注2） 牛ふん堆肥：牛のふん尿を腐らせて作った肥料。

（注3） 米ぬか：玄米を精白した際に出る外皮と胚の粉。

問1 （ a ）に入る国名を次の中から選びなさい。（5点）

オランダ，スイス，インド，ロシア，エジプト

問2 下線部(b)の「なぜ農業にそれほど多額の補助金を投入しているのだろうか」の具体的な理由が示されている箇所を文中から50字以内で抜き出ささい。（10点）

問3

(1) 下線部(c)の「正当化されている」の用法に注意し、この語が含まれる短文を作りなさい。（5点）

(2) 下線部(d)の「とりわけ」の用法に注意し、この語が含まれる短文を作りなさい。（5点）

(3) 下線部(e)の「明日のない状況」の用法に注意し、この語句が含まれる短文を作りなさい。（5点）

問4 日本の現在の農業はどのような状態にあるのか、本文にそくして適切に文章を作成し、300字以内で説明しなさい。（30点）

## 第2問 つぎの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ずっと遠い未来に化石を発掘する生き物がいたら、我々が存在した跡を見て何を思い、どのような評価をするだろうか。

人類が地球に大きな影響を与えた時代を「人新世」と名づけ、地質時代の正式な区分として位置づけることを国際組織が検討している。

「じんしんせい」、あるいは「ひとしんせい」と呼ばれるこの概念が意味するものを理解し、地球との付き合い方を見直す機会としたい。

地球 46 億年の歴史は地層に残る化石などをもとに区分されている。古生代石炭紀、中生代ジュラ紀などがあり、現在は 1 万 1700 年前から続く「新生代第四紀完新世」にある。

人類の活動が地質に刻まれた時代を、この完新世から独立させようというのが人新世だ。

オゾン層<sup>(注1)</sup>破壊を警告したノーベル賞学者が 2000 年に提唱し、09 年には地質時代を承認する国際地質科学連合<sup>(注2)</sup>に作業部会が設けられた。調査を進めて支持が集まれば、24 年に予定する連合理事会で正式に決まる。

どこからが人新世なのか。

農耕の始まり、米大陸の「発見」、産業革命なども候補にあがったが、1950 年代とする考えが有力とされている。核実験による放射性物質、プラスチック、石炭の燃焼による灰などが地層に残り、地球的規模で変化が起きた節目として区別しやすいからだという。

私たちが生きる時代が、地球史の節目になる重大な話だ。

いま地球では、過去 5 回あった恐竜などの大量絶滅期をしのぐ勢いで生物が死に絶え、その現象も地層に刻まれつつある。プラスチックに象徴される便利な生活は、人類発展の証しであると同時に、戦争、開発、浪費で地球を汚染し、生態系を壊してきた負の証しでもある。

先進国が謳歌<sup>(注3)</sup>しているのと同程度の暮らしを、全人類がするだけの資源は地球にはない。日本も温室効果ガス削減の新目標を打ち出して具体策を検討中だが、気候変動はもはや元に戻れないレベルにまで進んでいるとの指摘も聞かれる。環境の激変は食料不足を生み、新たな紛争を引き起こす恐れもある。

「人新世」は地質学の用語にとどまらず、環境や持続可能な社会、未来への責任について考えるキーワードとしても広がり、関連書籍の出版も相次ぐ。

(a) 破壊のスピードを抑え、破局を遅らせるために何をすべきか。回避する手段はあるのか。昨年来のコロナ禍がもたらした行動・思考様式の変化の中にも、ヒントがひそむ。

この夏。「人新世」を手がかりに、地球的視点で私たちの生き方を考えてみよう。

出典：「「人新世」地球の限界を考える」『朝日新聞』2021 年 8 月 2 日。必要に応じて表現などを変えてある。(承諾番号 23-1087 朝日新聞社無断で転載することを禁じる)

- (注 1) オゾン層：大気の成層圏である地上 10 から 50 キロメートル上空にあり，オゾンを大量に含む。生物に有害な紫外線を吸収する。
- (注 2) 国際地質科学連合：地質学分野の国際協力を目的として設立された非政府科学組織。
- (注 3) 謳歌：恵まれた境遇にあることを心おきなく楽しむこと。

問 1 今後「人新世」として認められた地層に，具体的にどのような人類の活動の跡が残ると想定されているのか，本文にそくして 60 字以内で答えなさい。(10 点)

問 2 下線部 (a) についてあなたはどのように考えるのか。具体例を挙げて 300 字以内で答えなさい。(30 点)